



木質ボイラー稼働

設置ホテルで式典 あわら協

あわら、坂井両市で県産間伐材などを使った熱エネルギー利用を推進する、あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会は8日、坂井市の三國観光ホテルに設置した木質バイオマスボイラーハウスで開いた。

本格稼働を始めた木質バイオマスボイラーは、坂井市内約70平方メートルの敷地内に設置された。このボイラーは、同ホテル東館を使用し、同ホテル東館の給湯やロビーなどの暖房の熱源として活用。年間約12万㍑の重油削減などを想定している。総事業費は約8千万円で、ボイラーの稼働や監

力120㎾のオーストリア製ボイラーを2基導入した。坂井森林組合の生産する杉間伐材チップ

視、燃料供給は同協議会が担う。

式典には関係者ら約50人が出席。同協議会の

土谷秀靖理事長が「今後

も木質バイオマスを普

及させ、持続可能なエネル

ギーの循環型社会形成

に努めていきたい」とあ

いさつ。坂井市の北川

貞二副市長らと熱供給格稼働する予定。

(児島崇之)